授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　社会科　）　学年（　１学年　）

目指す授業

対話的な学びを通して思考を深め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をつける。

授業・アンケート等の課題分析

入学当初の文京区学力調査によれば、35 名のうち 31%（11 名）が達成率 50%以下であった。基礎学力の定着が不十分で、特に表現力に課題をもつ生徒が多い。授業では前向きに取り組もうとしているが、学習習慣が定着しておらず小テストや定期考査で点数が伸び悩む生徒もいる。それらを踏まえ、学力をバランスよく向上させることを目的として、授業内における映像資料の活用、読解力・表現力の向上、キーワードを意識しながら授業に臨み自分の言葉で表現する機会を設定するなどを行った。

成果と課題

成果

授業アンケートによれば「社会の授業に積極的に取り組んでいる」という問いに否定的な回答をした生徒は、7 月実施 9%（3 名）から 2 月実施 3%（1 名）へ減少した。授業において学習へ向かう姿勢は向上している。「社会の授業では、自分の考えを書いたり、発表する機会が与えられたりしている」という問いに「当てはまる」と回答した生徒は 7 月実施 45%（15 名）から 2 月実施 71%（22 名）へ増加した。表現力を向上させる学習活動の成果と考えられる。

課題

第 4 回定期考査では、12%（4 名）が 90 点以上を得点した一方で、45%（15 名）が 50 点以下であり、学習到達度の差が明らかになった。また、考査後のアンケート調査によれば、33%の生徒が「自分の学習時間は十分ではない」と回答している。授業には前向きに参加する一方で、復習やテスト勉強には十分な時間を確保できておらず、得点に結びつくまでに至らないと考えられる。生徒が「わかる」かつ「楽しい」実感をもてる授業を展開し、学習習慣を定着させることができるような適切な課題を提示する。

授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　　社会科　　）　　学年（　　２学年　　）

目指す授業

対話的な学びを通して思考を深め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をつける。

授業・アンケート等の課題分析

７月までの授業やアンケート結果から、学級内で学習内容定着度が二極化していることが明らかになっていた。これを受けて、定着度の高い生徒がさらに学力を向上させるためと定着度の低い生徒が徐々にレベルを上げるため、授業内容を自分の言葉で説明したり、学習内容を振り返ったりする機会を多く設定した。また、資料活用の技能を高めるとともに知識理解の定着を図る取り組みを強化した。

成果と課題

成果

７月実施の授業アンケートでは「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに 43%（9 名）が「当てはまる」(「まあまあ当てはまる」を含めると 91%）と肯定的に回答した。2 月には同質問項目に、68%（13 名）が「当てはまる」と回答し、楽しさを感じる生徒が 4 名増加した。

地理的分野の学習では、全ての生徒が異なる内容を担当し、ワークシートを作成し、プレゼンテーション発表を行った。調べ、まとめる取り組みや、グループで進捗状況を確認しアドバイスし合うことなどを通して、資料を活用する技能や思考力・判断力・表現力が向上した。また、「自分たちで調べて発表する方が内容をよく覚えることができた」という生徒の感想もあり、総じて学びに向かう姿勢が向上した。

課題

２月実施の第 4 回定期考査では、22 名中 5 名（22%）が 90 点以上を得点し、9 名（40%）が 50 点以下という結果である。一年次よりも得点力が向上しているが、現時点においても学習内容定着度の二極化傾向は強い。すべての生徒へ学ぶ楽しさを実感させ、学習意欲と学力を向上させるための課題作成や授業展開の工夫を両立させることが課題である。

授業改善推進プラン　　成果と課題

教科（　　社会科　　）　　学年（　　３学年　　）

目指す授業

対話的な学びを通して思考を深め、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をつける。

授業・アンケート等の課題分析

７月に実施した授業アンケートでは「自分の考えを書いたり発表する機会を与えられている」という問いに 100%の生徒が肯定的な回答をした。しかし「生徒の間で学び合う活動を通して、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができている」という問いに 11%（１名）の生徒が否定的回答をした。これらを踏まえ、自分の考えをまとめたり論述したりする機会を増やすことや、学び合いの土台としての基礎的な知識や理解の向上を図るため、授業内の振り返りや復習を充実させた。

成果と課題

成果

７月に続き、２月に実施した授業アンケートにおいても「自分の考えを書いたり発表する機会を与えられている」という問いに 100%の生徒が肯定的な回答をした。公民的分野において日々の暮らしや身近な生活、自己の将来に関わるテーマを数多く紹介しながら、思考力や判断力や表現力を強化することができた。「軍縮」「経済格差」「エネルギー資源」などの世界規模の問題に対しても、①具体的にどのようなことが問題であるのか、②政府が取り組むべきことは何か、③自分が取り組もうと思うことは何かという３項目全てに、ほとんどの生徒が自分なりの考えを深め、記述することができた。

課題

「自分の考えを書いたり発表する機会を与えられている」と全員が考える一方で、「生徒の間で学び合う活動を通して、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができている」という問いには 18%（２名）が否定的な回答をした。全ての生徒が対話的な学びを通してさらに考えを広げたり深めたりすることができるよう、生徒の思考の変容を促す手立てや授業展開を工夫することが課題である。